

(お知らせ)

令和元年9月25日  
航空幕僚監部

## 航空自衛隊及び豪州空軍による共同発表

航空幕僚長丸茂吉成空将と豪州空軍本部長メル・ハプフェルド中將は、日本国内における航空自衛隊と豪州空軍による初の戦闘機による共同訓練を歓迎した。この歴史的な訓練は、日豪外務・防衛閣僚協議において実施が発表されたものであり、日豪の「特別な戦略的パートナーシップ」を象徴するもの。このパートナーシップは、共通の戦略的利益及び自由で、開かれ、安定的で、繁栄するインド太平洋に対するコミットメントを含む共有された価値に基づく。丸茂空将とハプフェルド中將はこの機会を捉え、以下の内容についての認識を共有した。

### 1 日豪間の防衛協力・交流の深化

日豪両国は、共通の戦略的利益及び共有された価値に基づき実践的な防衛協力をより一層強化している。「武士道ガーディアン19」は、航空自衛隊と豪州空軍の関係強化を象徴するものであり、両者の結び付きは自衛隊と豪州国防軍の協力強化に関する両国の取組みにおいて重要なもの。

### 2 日豪空軍種における相互運用性の向上

今般の「武士道ガーディアン19」は、航空自衛隊と豪州空軍の相互運用性を向上するための日豪間のコミットメントを実証するもの。航空自衛隊と豪州空軍は、新たな領域を含むより広い分野における二国間及び多国間の訓練・演習の進歩の機会を引き続き追求する。

### 3 インド太平洋の平和と安定に向けた貢献

日豪両国は、自由で、開かれ、安定的で、繁栄するインド太平洋を維持し、促進するため、積極的に協力している。航空自衛隊と豪州空軍は、この二か国の地域へのコミットメントに寄与する機会を引き続き追求する。